



ところ。この春気付いたこと（印象：科学的な根拠なし、因果関係計測なし）3点、記してみます。

- ① 少雪だったが、ユキツバキの枯れた姿は目にしていない。しかし、落葉が目立ったような印象がある。
- ② 今年は、ゼンマイの収穫が多かった。それもいつもより太いものが多かった。……村のバア様方のことば。私も両親も同じ印象を受けています。
- ③ 家の裏に何種類かのシダを、山から移植しています。数年を経ているが、今春は葉柄も太く勢いが盛んです。

## 南魚沼郡湯沢町

佐藤 政二

雪国湯沢の2月の雪消えの早さは1990年以來のことで、17年ぶりであります。下旬には南面する急斜面の地肌が現れて、春の胎動が見られるようになりました。湯沢で今年初めて開花を確認したのはマルバマンサクで2月28日、魚野川沿いの里山でした。

3月4日には、清津川の二居でアオイスミレが花より小さな葉を2枚つけて開花しました。8日には、湯沢の東山でスハマソウが新葉を見せないで咲き始めました。近くではカタクリが花茎を伸ばしながら、葉を広げようとしていました。以前湯沢の里山でスハマソウの開花を確認したのは4月上旬のことで、新葉も伸ばし始めていました。周囲にはヒトリシズカ・エチゴキジムシロ・ミヤマキケマン・コシノホンモンジスゲなどが開花していました。

その後は一転寒の戻りの冬日で、雪また雪の日々となり、里山でも50cm以上の積雪となりました。窓の外に舞い降りる雪を見ながら、花の標本の紙換えをしていると、標本の花が凍りついていくように見えてきます。残雪に覆われている場所がほとんどの、3月23日の湯沢では、オオニワトコがつぼみと細い葉を雪のうえに復活させていました。

二居のアオイスミレが再び現れたのは3月29日で、雪のように白い花をつけていました。

里山の雪が消えた4月も春暖の日が続くことすくなく、陽だまりの温もりを感じませんでしたが、4月2日の広河原ではヤナギ・ダンコウバイ・ケキブシ・アオイスミレ・コチャルメルソウ・エンレイソウの開花を見ることができました。また、4月10日の滝の又ではヤマアイ・ヤマエンゴサク・ツルネコノメソウ・ホクリクネコノメソウ・チシマネコノメソウ・コシジタネツケバナ・ハシリドコロ・タヌキランが開花していました。4月14日の小久保沢でアズマイチゲの開花に出会いました。幾年も湯沢を歩いているのに初対面でした。

4月の末に二居でフモトスミレ、湯沢でエイザンスミレ・マキノスミレ・セントウソウが開花していました。いままで、ゴールデンウィーク明けから5月末にかけて開花を確認していました。今後も植物のうちに秘めた対応の姿を見つめていきたいと思っております。

## この春、気になった佐渡の植物

渡辺 洋子

暖冬と思っていた所が、2月の下旬から急に寒くなり、その後、暖かい日が交互に来るなど、植物もとまどって早く咲くもの、遅く咲くもの、まちまちの感を受けました。

大野危のトビシマカンゾウも、今年は色こそ濃いのですが、背が低く、花も小ぶりでした。例年同じ頃に咲くカラマツソウやオオハナウドはすでに花が終わり、アサツキは花色も浅く、小さくてきちんと開花しないのも、多数あるように思われました。

その他にも気づいたことを少し拾ってみたいと思います。

4月7日杉池へ行ったのですが、ユキツバキの蕾がとても少なく感じられましたが、伸には茶色く変色した小さな固い蕾がいっぱい下に落ちている木もありました。昨年12月15日新穂大野の清水平の辺りを歩いていた時、ユキツバキの花が落ちているのに驚きました。よくみると、その木には開きかけの蕾をつけた木が見られ、春の開花期に再度行ってみようと思いつきながら、そのままになってしまいました。杉池へは5月7日再び行った時、ユキツバキは満開ではありましたが、全体に小さい花が多く感じられました。

1月1日、加茂湖畔の樹崎を散歩していると、樹高7～8mのイヌザクラの木に一面に蕾がついていて、枝先には若葉の出ている木がありました。この木の周辺が特別暖かいのか、近くのキタコブシも蕾がふくらみ、キタコブシの花芽は正月見た時と変わらぬ状態にみえましたが、イヌザクラの方は葉も蕾もすっかり落ちてしまっていました。

正月の時、イヌザクラとキタコブシの枝を持って帰って、窓辺の暖かい陽の当たる場所に置いたのですが、面白いことに、キタコブシは4・5日で、曲がりなりにも開花したのですが、イヌザクラは蕾の先が割れて白い花びらが見えているような蕾もあったのに、とうとう1個も開花しませんでした。

その後、5月8日に樹崎に行くと、カスミザクラやウワミズザクラ、コバノトネリコ、レンゲツツジ等は花が咲いていましたが、イヌザクラの木にはほんのわずかの蕾しかついていませんでした。